

令和5年度 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切にすることを実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。			
三つの方針(スクール・ポリシー)	具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
三つの方針(スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	①豊かな創造性と進取の精神を備えた、意欲的に学ぶ自立した学習者の育成 ②多様な考え方を受け入れ、協働的に学ぶ姿勢を貫ける地域のリーダーの育成 ③未来を切り拓く知性と能力を身につけるために、努力を続ける地球市民の育成	B	入学時からの系統的指導の確立。
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	①全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせる「学び舎」の実現 ②生徒一人ひとりを大切にし、進路実現にこだわったきめ細かな教育の実現 ③ICTを活用し、授業+αの学習を主体的に実践する仕組みづくりの実現	B	生徒一人ひとりの学習特性に配慮した、教育活動の実現。
	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	①己に打ち克ち、学習活動と部活動・特別活動の両立を目指す生徒 ②誠実を重んじ、端正な服装と丁寧な言葉や態度を実践できる生徒 ③創造的であり、知的好奇心と他者に寛大な心を大切にできる生徒	A	一人ひとりの自己実現に配慮した学校づくりが為されているかを常に点検しつつ、地域に周知すること。
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
(学習指導) [成果]令和5年度入試の国公立大学現役合格者数は60名であった。一人ひとりの進路希望を多様な入試形態に対応して検討するなど、3年間を見通した継続的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。1年生の地域探究を経て、2年生で沖繩探究を継続し、成果の共有や発表等の機会を通して、生徒の自主性・行動力・発信力が向上した。 [課題]新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した学力の3要素を育成する授業や評価の在り方を研究していく。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進 …主体的で深い学びの展開/AIに代替できない力の育成/ICTの活用、授業改善・研究の推進 (2) 入りたい大学への積極的な挑戦 …キャリア教育を踏まえた計画的偶発性(体験の仕掛け)/生涯学ぶ力(含Re-skilling)の育成	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 KPI指標: 授業満足度(知識・技能)平均値3.2(80%)以上 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業改善・研究を推進し、指導力向上に努める。 KPI指標: 授業満足度(思考力・表現力)平均値3.2(80%)以上 3 進路希望に応じた適切な課題や深い内容を取り入れ、ICTの活用を推進する等、AIに代替できない自ら学び続ける力を育成する。 4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、生涯に渡って学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協力体制を構築する。 7 計画的偶発性を踏まえた体験的進路行事を推進すると共に、課外指導では、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。	B	
(豊かな心の育成) [成果]生徒は穏やかに協調性があり、落ち着いた学校生活を送っている。システム手帳の活用は、時間管理・自己管理に寄与している。 [課題]主体的に課題を見つけ、分析・判断し、自己を表現できる生徒の育成に努めていく。	(3) 「豊かな心」の育成 …多様性(Diversity)を認め合う力・共感力(Empathy)をもったグローバル人材の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、多様性を認め合える心と他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる共感力(Empathy)と人間性を育み、SNS使用の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、互いの違いを認め、グローバルな視点を持ちローカルな社会でも活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への、共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を行い、対応力を向上させる。	A	
(学習活動と部活動・特別活動の両立) [成果]部活動・生徒会活動に積極的に参加しており、部活動加入率は8割を超えている。令和5年度国公立大学現役合格者に占める部活動加入者の割合は73.3%で、昨年度より下降している。 [課題]学びに向かう力・学び続ける頑健な心身の育成に努めていく。	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立 …文武不岐に挑戦(Challenge)する力・躓きからの回復力(Resilience)・自己肯定感の育成 (5) 健康と安全への配慮 …生徒への伴走/寄り添い(Put one's feet into someone's shoes.)、働き方改革の推進	13 部活動の一層の活性化を図り、活動として、挑戦する力・躓きからしなやかに回復する力(Resilience)・自己肯定感を育む。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。 15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒への寄り添いを重視して、生徒相談の充実を努め、スクールカウンセラーと連携し、自身や他者の生命を大切に思う心を育む。 17 学校行事の効果的配置や校務の適正化・効率化を推進することにより、教員の働き方を改革し、更なる教育活動の有効化を追求する。	A	
(今後のビジョン) 丁寧な学習指導と多様な体験活動を継続して生徒一人ひとりの可能性を広げ、進路希望を実現する。豊かな人間力と課題解決力を備えた人材を、輩出する進学校として、地域からの信頼を得られるよう努める。	(6) 情報公開の積極化 …魅力の発信と広報体制の充実、志願者確保、「詫奥さは日北の専売特許」のアピール	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、生徒の活躍ぶりの広報と学校の情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、魅力の発信と志願者数確保に努める。 20 ポスター・スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。	A	
	(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開 …地域と連携し、地域に愛されるグローバル(Global+Local)な高校へ	22 本校の将来像を見据え、グランドデザインに基づきグローバル(Global+Local)な教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として連携を進めつつ、地域に愛される普通高校の在り方について検討を進める。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	国語	授業満足度を高め、理解を深める指導	授業改善を進めつつ、学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1,2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業をより充実させ、ICTやオンライン等を活用した授業研究を継続し、指導力向上に繋げる。 	
		積極的な学習態度の育成	習熟度別授業や課題学習を通して、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3,4	B		
		基礎学力の向上	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	1	A		<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させ、希望進路を実現できるようにする。 ・生徒の実態を把握し、生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業の実践ができるように工夫する。 ・より効果的にICTを活用した授業の実践ができるように工夫する。
			小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、ICTの活用などで展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	1,2	B		
	大学進学に対応した学力の向上	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	3,7	A			
	地歴	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	授業改善を進めつつ、シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	1,2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス通りに授業を進められ共通テストの内容に対応するための教材研究が行われている。定期考査の作問についても思考力・判断力・表現力の高い方を工夫する必要がある。 ・ICTを活用した授業展開をしている。生徒達の表現ツールとして、ICTを活用する機会を設ける。 	
		家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。ICTを活用して知識の習得を図る。	1,3	B		
	公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	1,3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の指導だけでなく、現代の諸課題に対する自分の意見を持ち、それを論理的に表現できるよう授業の中でも支援していく必要がある。 情報の取捨方法や精査について指導する必要がある。 	
		授業満足度を高め、公民的思考力を養う。	授業改善を進めつつ、時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。ネットワークを活用して目的に応じて様々な情報を集める。	3,10	B		
	数学	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	演習・授業で少人数授業や習熟度別授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着のための課外や補習等の支援ができています。生徒たちの力をさらに伸ばすためには現状を的確に把握し、指導を工夫していく。 ・家庭学習の習慣化のための工夫をさらに深めていく。 ・教科全体で共通理解を持って、異動などでメンバーが替わっても生徒たちのためにによりよい指導ができるようなシステムを構築して考えていく。 	
		家庭学習の定着に努める	副教材を用いて計画的に授業の復習をする。習慣が身に付くよう、定期的ノートを点検する。また、スタディサプリ等の利用を推進し、自ら学習する姿勢を養う。	2	A		
		大学進学に対応した学力の向上	予習・授業・復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかりと行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。	3	A		
			模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	7	A		
	理科	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1,2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの変更を見据え、文章から必要な情報を読み取り、それと既習の知識を基に考察を深めていくような力を生徒につけさせるための取組を模索している。 	
		科学的思考力・判断力を養う。	授業改善を進めつつ、必要に応じてインターネット等を活用し、教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	2,3	B		
			実験・観察を通し、科学的に判断する力を育成する。	2,3	B		
	保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1,16	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も体力優良賞を受賞することができた。来年度も引き続き受賞できるように日々の体力向上に取り組んでいく。 ・体育授業でICTを活用した取組が進んでいく。来年度は活用ができるようにwi-fiの整備など環境整備をお願いしたい。 	
		授業満足度を高め、頑健な体力と強靱な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2,13	A		
			安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2,13	A		
		健康の保持・増進に努める	授業改善を進めつつ、ICTを活用し、知識及び技術の習得を図る。	1,2	B		
芸術	基礎基本の重視	個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、知識・技能を修得させる。	1	A	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室や美術室は校内ネットワークがつかないため、インターネットを活用して多くの作品に触れさせることができたとは言いがたい。 次年度以降、インターネット環境の整備を推進するよう働きかけながら充実した授業展開を目指したい。 		
	授業満足度を高め、思考力・判断力・表現力の育成	授業改善を進めつつ、発表の機会を充実させるとともに、グループワークや相互評価の場を充実させることにより他者のアイデアから学べる機会を増やす。	2	B			
	ICTの活用	お手本動画の作成、グループワークでのチャット機能等の活用、振り返りや評価の場面でのネットワーク上での回収・管理などを行い、学びを深める。	3	A			
外国語(英語)	授業満足度を高め、基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人一人の到達度を把握し、学力の向上を図る。	1	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のうちに予習・授業・復習の学習習慣をつけさせる必要がある。 ・English Cafeを広げていきたい。 ・日立北高校としての統一したスタイルの導入が必要である。 ・コンテストで継続して入賞を目指したい。 ・受験において英語が重要科目であるという意識付けをする。 		
		定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	1,4	A			
	家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	1,3	A			
		声かけを丁寧に行うことにより、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2,12	B			
	受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。ICTの活用	授業改善を進めつつ、デジタル教科書やアプリケーションを含めたICTの効果的な活用や教材の精選によって、密度の濃い授業を展開する。	2,3	B			
		課外授業を通じて、一人一人の進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	1,7	A			
グローバル人材を育成する。	国内留学や海外留学の機会を生徒に提供し、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を図る。	10	B				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
家庭	将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をおとして、将来を見つめ、自立への意識を高める。自分の生活をデザインしようとする意識の高揚を図る。	3, 5, 6	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習したことを自分事と捉えられるよう、生徒の生活実態に合わせた実習や体験学習の工夫が必要。 内容の充実したレポートが作成できるように指導を行う。
		実習・体験学習・ICTの活用をおとして、技能の習得を図り、実践的な力を育成する。	1, 8, 12	B		
		グループ活動をおとして、協働や協調性を育成する。	9, 12	A		
		授業改善を進めつつ、生活課題を見つ解決していく実践的な態度を育成する。	1, 8	A		
	授業満足度を高め、自立した生活に必要な知識・技能の定着を図るとともに、適切な価値判断と意思決定をする力の育成	課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	3, 5, 12	B		
		情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。	9	B		
		情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2	B		
		授業改善を進めつつ、コンピュータやデータの活用の方法を実習をおとして具体的に理解し、技能を育成する。	1	B		
情報	ICTを活用し個に合った問題演習を課し学力の向上を図る。	3, 7	B			
	ICTを活用し個に合った問題演習を課し学力の向上を図る。	3, 7	B			
教務	授業時間の確保	調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1, 17	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画作成の際に弾力的運用により授業時数の確保に努めた。 授業時数確保に関して、突発的に授業が自習になることを避け、先生方に授業交換にご協力をいただきながら、自習は原則無かった。 校内事情に応じ、時間割をその都度問題が生じないよう変更した。 放送やチャームなど業務マニュアル整備が継続的に進んでいる。 授業力向上に資するため互見授業の機会を年間10回設定した。 授業公開も、中学生や県内教職員、本校生保護者など行事ごとに多数来ていただいた。その際のアンケート調査結果をフィードバック共有し、授業改善につなげた。進路部と連携し、授業研究を予備校へ10名派遣し、先進校視察(京都堀川高校)も実施し、紀要発表により情報共有した。 課題としては授業力向上を学力向上につなげる工夫と手立てが問われている。もう一つの課題としては、教育目標の具体化と、目的意識の共有を図り1つ1つの事業に対し精選を進める必要があるだろう。 継続的に実行可能な国際交流活動を推進することができた。海外派遣を実現することが次年度の課題であろう。
		授業改善の推進	積極的な互見授業等を通して、生徒の学力向上に不可欠なICT教育と授業力の向上を図り、授業改善を推進する。	2, 3		
	学力向上の推進	達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施し、授業満足度を高める。	1, 3	B		
	自ら課題を見つけ自ら学ぶ力の育成	すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。	3, 5, 10	A		
	教育課程編成の研究	新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	11, 12, 22	A		
		図書部関連行事の徹底を図る。	16	A		
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	B		
		図書委員会活動を活性化させる。	13	A		
	図書館利用の促進	ICTを活用した、書籍・資料の充実を図る。	13	A		
		ICTを活用した、書籍・資料の充実を図る。	13	A		
生徒指導	学年の協力体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	9, 16	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪指導に関して、従来の全体指導から考査期間の観察指導とされているため、学年・教員間の指導基準の共通認識を確実にすると共に実施方法についても検討も必要。 スマホに関しては、3年生までタブレットが揃っているため、放課後までは使用する必要がないことを再確認(共通理解)する。
		生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	8, 12, 16	A		
	生徒の現状把握	容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	8, 9	B		
		登校指導の継続的実施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	9, 15	B		
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	16	A		
		幅広く客観性が担保されるよう校則の点検・見直しに取り組む	11	A		
	事故の未然防止	登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	8	A		
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	8, 9	A		
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	8, 9	A		
	生徒の意識の高揚	日立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	4	B		
		「道徳」や「道徳プラス」においてICTを活用した「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。	9	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
進路指導	生徒の適切な進路選択の支援	生徒の主体的な進路選択が支援できるように、個別面談を充実させる。そのために、入試情報などの各種情報を整理して、担任や生徒・保護者に適切に提供する。	4.6 21	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路選択の幅を広げるために、生徒・教員双方への進路情報の提供の仕方を工夫する必要がある。 ・一つひとつの行事をより一層充実させるために、目的を事前にきちんと共有した上で実施し、効果を検証していく必要がある。 ・生徒の基礎学力を向上させるための工夫やひいては共通テストにつながるような学力向上の手立てを引き続き考察していく必要がある。特に、家庭学習習慣の定着に向けた指導の工夫・改善が必要と思われる。 ・学校開放のあり方について、考える時期かもしれない。働き方改革もあるが、教員に手当を支給してまでせかけやからにはもっと利用者を増やすような教員の働きかけが必要。 ・また当番の先生が1人なので、生徒が万一事故や事件に遭遇したときに対応するのが非常に困難。その時の担当者としても、予期せぬ出来事に対し、初動を誤る可能性は否めない。 ・学校推薦型選抜指導のノウハウ継承には工夫とともに若い先生方に対する指導も必要と思われる。
		職業観育成セミナー、進路観育成セミナー、大学模擬授業など、進路関連の様々な行事を通して、生徒が自分の将来について真剣に考える機会を設ける。また、行事内容のより一層の充実と精選を図る。	5.6 14,17	A		
		茨城大学工学部インターンシップ、一日看護体験などの希望者対象の各種進路体験を生徒に積極的に案内し、自分の進路に対する視野を広げる機会を増やす。	5.6 14	A		
	生徒の基礎学力の向上	授業を中心とした予習・復習の習慣を定着させる。そのためにシステム手帳の活用や、スタディサブリの活用・普及に向けて、学年や担任をサポートする。	3.4	B		
		実力養成のための学習機会を確保するため、朝ドリル・小論文指導・面接指導・実技指導・模擬試験・平常課外・長期休業日課外等を実施する。また、土曜登校日・早朝夜間自習室開放・休日自習室開放への積極的参加を推進する。	1.3 7	B		
		入試問題や入試情報・受験報告書等の整理と適切な提供に努め、学習意欲の喚起と学力の向上を図る。	3.6 21	A		
		職業探究、学問探究、地域探究、沖縄探究という一連の探究活動を通して、自分で課題を発見し、それを突き詰めていく力を育成する。	3.5 14	A		
指導のノウハウの継承	進路分析会を毎年開催し、学年や担任の指導のノウハウの伝達や継承、改善を図る。	6.22 23	A			
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して、生徒の健康の維持・増進を図る。	15	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理初動マニュアルを配置できた。しかしながら、危機管理マニュアルの見直しがあり進まなかった。この改訂については管理職を始め他分掌との連携が必要である。 ・防災倉庫の備品について、実際の避難の場面を想定して必要なものが揃っているか点検する必要がある。 ・看護教諭不在時の保健室運営について再検討する必要がある。 ・年度初めに保健関係マニュアル等を作成・配付して部以外の先生方にも保健室運営について把握していただいた方がよいのではないか。 ・奨学金関係は引き継ぎをした方がよいと思う。教室外登校で相談室を使用することがあるが、夏はひどく暑く、冬は極寒であり、生徒は困っている。早急なエアコン設置が必要である。感染症予防対策として教室内換気用の固定器具を装着した主旨や意図を確実に伝え活用する。
		定期健康診断が円滑かつ効果的に行えるよう体制を強化する。	15	A		
		感染症予防体制の強化を図る。	15	A		
		看護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	15, 16	A		
		感染症、栄養、運動、休養、保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	15, 16	A		
	安全で快適な教育環境の維持に努める	保健厚生部広報紙「爽」を年1回発行する。	15, 16	A		
		ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう、生徒への指導を徹底する。	15	A		
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	15	A		
		防災訓練を実施し、非常時の安全確保に備える。	15	A		
		エアコンの使用について、使用温度等の規則の徹底を図る。	15	A		
		大掃除の実施時期と係分担任を定め、効率的・効果的に環境の美化に努める。	17	A		
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう、厚生係の体制の強化を図る。	17	A		
		専門家による性教育を実施する。	15	A		
		特別支援教育の充実に努める。	12, 16	A		
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	17, 20	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動・部活動・生徒会活動ともに生徒達がより頑張っている。今後さらに生徒主体の活動が盛んに行えるように生徒達に働きかけていく。生徒達の日々の活動をホームページなどを通してもっと発信していくよう更新に努める。
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進めるとともに、キャリアパスポートを活用し規律や協調性を養う。	14	B		
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	13, 19, 22	A		
		文化部への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	13, 19	A		
		施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14, 15	A		
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	「生徒会ステーション」を発行し、ICTの活用を推進するなど広報に努める。	20, 21	B		
		生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。	8, 20	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	18	A	*地域での巡回指導廃止など、生徒指導委員の活動内容について見直す段階に来ている。学年委員の募集方法についても検討していきたい。
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	5	A	
		保護者と協働して、生徒へマナーアップの呼びかけを行う。	18	B	
		ICT等を活用してPTA活動の業務の効率化を図る。	15,18	B	
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	18	A	
	同窓会幹事会に学校の動向を伝える。	18	A		
1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶・身だしなみ・時間厳守・言葉使い・清掃を通し、基本的生活習慣を確立する。	5,6	A	*朝の時間を守ることへの指導を継続する。 *SNS、スマートフォン使用についての指導。 *進路意識及び家庭学習時間の向上。 *互いを高め合える集団の育成。
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適応できる人材を育成する。	8,9	B	
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2,3	B	
		ICTを活用したよりよい授業の在り方を研究する。	7	A	
		朝ドリル・課外授業に積極的・継続的に取り組ませる。	3,17	A	
	進路指導の充実	早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。	6,21	B	
個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。		4,5,6	A		
2学年	基本的生活習慣の確立	端正な服装、容儀の保持や挨拶などの指導、時間厳守の行動の励行。	8,9	C	*生徒の進路希望と真摯に向き合い、教員も学ぶ。進路実現に向けた意識の向上。 目標に向かって努力できる雰囲気作り 共通アストに向けた対応と情報提供 個人面談による生徒把握と的確なアドバイス *授業・行事へ主体的に取り組む姿勢をさらに伸ばす。 責任ある行動をとれる生徒の育成をする。 基本的生活習慣を徹底し、首魁人になるための基礎を育成
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	学校行事、部活、課外等に積極的に参加させ、強い体力、精神力を養うとともに自ら考え、責任ある行動をとれるようにする。	13,14,15	B	
	学習習慣の改善と進路探究活動の充実	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習ドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	3	B	
		面談、HR、講演会、模試等を活用し、進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4,6	A	
3学年	基本的生活習慣の確立	社会人として必要なTPOに応じた言動(挨拶・身だしなみ・時間管理・マナー・思いやり等)を励行し、継続的に実践できるようにする。	8,9	B	*推薦の指導においては全職員の強力な指導により例年並みの結果が残せた。指導体制の維持存続に努めるべき。 *コロナ禍により生活習慣が変わったためか欠席する生徒や不登校気味になる生徒が多かった。授業第一主義を再確認し、学校生活を大切にすることを伝えていきたい。 *学年内の連絡が不徹底のため混乱が生じてもおかしくない状況もあったが、先生方の適切な連携判断により大きなトラブルは生じなかった。チャットやクラスルームなど情報を伝える手段は増えたが、その分見落としも増えてしまった感がある。 *模試担当の先生に大きな負担がかかってしまった。 3年模試担当は増員すべきだった。 *3年間を通して生徒に生き方の指針となる言葉を厳選し定着させたかった。
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係をもとに、生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスする。	4	A	
		学校行事、部活、清掃、課外等に参加させ、心身を鍛え、自ら考え責任ある行動をとれるようにする。	13,14	A	
	進路希望実現への支援	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習ドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	1,3,7	B	
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4,5,6	A	
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、学年会等を活用して教員間で生徒情報を共有する。	8	A	
学年団で教務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。		17	A		

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない